

奉訪姊后

訪子女

幼帝同興

〔伏見院御記〕正應元年二月八日癸亥、參角御所、今夕行啓常磐井殿○後深草也、○中大夫著公卿座、以大進覽日時勘文、了返給公卿等、即著靴立中門邊、次反閉、陰陽師進自北方昇階、入庇御簾內、反閉了退出、次公卿等、次第進列立階北、東上南面、即進御輿慈華、兼儲御車寄、○中略兩大夫、經御輿前、昇自中門、寄御輿先立几帳、兩方次立屏風、次女房取御劔入御輿內、次乘御、女房閉御輿帷、其後於北對妻見之、公卿等前行、

〔日本紀略十二條〕長和二年四月十三日甲戌、中宮○妍子自春宮大夫○藤原齊信家、還御上東門、策便行啓皇太后宮○妍子姊一、枇杷第、爲御對面也、供奉官人給屯食、

〔榮花物語三十一條〕齋院に、つひにひめ宮女○後一條、さだまらせ給ぬれば、みかど○後一條、后○馨子御、

おぼしさわがせ給事、かぎりなし、○中略八月三十日○長元五年、に中宮行啓あり、蘇芳のこくうすきに

ほひなごに、くさのかうの御ぞなごたてまつる、いとをかしうなまめかしくめでたき御ありさ

ま也、月頃の程に、こよなくおとなびさせ給にけるを、あはれにみたてまつらせ給、ふつかばかり

おはしましてかへらせ給を、いとあかすくちをしうおぼしめさる、うちの御つかひの、霧をわけ

てまゐるもいとをかしうおぼしめさる、○中略ことし○長元六年も十月に、齋院に行啓あり、このたび

は五六日ばかりおはします、十月廿日庚申なるに、上達部殿上人まゐり、あそびのかたの人も

ふみの道の人々もめしあつめ、のこりなくまゐりて、歌よみあそびなどあり、げらうも、そのみち

の人はまじりたり、○中略のどかにもおはしますすべけれど、あかでかへらせ給も、かゝる御有様に

はくるしげなりやとぞ、

〔十三代要略二〕承暦四年五月三日、中宮○賢子行啓齋野宮○賢子、

〔百練抄十五〕寛元四年二月十三日癸酉、御讓位○後深草、已後始行幸○後深草、閑院○幸一夜儀、中宮○后母、

御同興也、攝政○藤原經、已下供奉之、中宮宮司權大進高經供奉、出車糸毛金作檳榔等十兩○今二兩、

也、